

## ☆協定加盟事業所からの事業所紹介

東海ノア協定加盟事業所間の相互理解を図ることを目的に、安全活動への取組状況等について加盟事業所からの紹介記事を掲載します。

—の—

### 『大洗研究所における安全への取組みについて』

日本原子力研究開発機構  
大洗研究所

#### 1. はじめに



大洗研究所は、平成17年10月の日本原子力研究開発機構発足に伴い、旧日本原子力研究所と旧核燃料サイクル開発機構の大洗拠点が統合してできた研究拠点となります。

特徴として、仕様の異なる3つの試験研究炉（高速実験炉「常陽」、高温工学試験研究炉 HTTR、材料試験炉 JMTR）を持ち、新型原子炉に関する技術開発を一貫して行ってきた我が国唯一のユニークな研究所であり、国際的に新型炉研究の中核拠点として知られています。

業務としては3つの試験研究炉と関連施設等において、新型炉に関する技術開発を行うほか、福島第一原発の廃止措置等に向けた研究開発、材料試験炉の廃止措置及び技術開発、廃止措置・放射性廃棄物処理処分に係る技術開発を主要なミッションとして、研究開発を実施しています。

これらの業務の実施にあたっては、安全を最優先に掲げ、業務の継続的な改善に取り組むとともに、訓練等により事故対応体制の充実を図るなど、地域の方々の安心と信頼が得られるように努めています。

以下に、大洗研究所の安全衛生活動を紹介します。

## 2. 安全確保に係る基本方針の策定

大洗研究所では、毎年安全衛生に係る基本方針を策定し、その基本方針に基づき、安全衛生活動を実施しています。

本年度は以下の方針に基づき活動を行っています。

### 【令和2年度大洗研究所安全衛生活動基本方針】

- (1) 安全確保を最優先とする。
- (2) 法令及びルール（自ら決めたことや社会との約束）を守る。
- (3) 情報共有及び相互理解に、不断に取り組む。
- (4) 健康管理の充実と労働衛生活動に積極的に取り組む。

## 3. 具体的な安全衛生活動内容について

### (1) 構内放送を利用した意識高揚活動

所長が自ら、安全週間行事等において、研究所における様々な情勢や安全衛生活動への取り組みなど、安全確保への強い決意を、構内放送などで全従業員に直接伝えています。

### (2) 安全パトロール等の安全衛生管理活動の実施。

当研究所では、安全文化の育成及び安全意識の向上に努め、法令や安全規則の遵守を徹底し、安全のマネジメントシステムが確実に機能するよう様々な活動を展開しています。以下に一例を紹介します。



安全パトロール



TBM  
(ツールボックスミーティング)



品質保証講演会

### (3) 原子力防災体制の整備

原子力施設での万が一の事故・故障及び災害に備え、大洗研究所では職員等を対象に、毎年2回の総合訓練を実施するほか、茨城県等が実施する訓練に参加協力しています。

令和2年度の総合訓練においては、ナトリウム火災を想定した公設消防との連携訓練、震度6弱の地震を起因とした、原子力施設2施設での原災法事象の同時複合災害を想定し、緊急時対応の訓練を実施し、円滑、かつ迅速な事故・故障及び災害対応が遂行できるよう職員等が一丸となって、対応能力の向上に取り組んでいます。

### (4) 核物質防護訓練の実施

核燃料物質及びそれらの関連施設に係る盗取、妨害破壊行為、無許可立ち入り等の行為を防止するため、研究所では、これらの行為を監視、検知していま

す。

また、核燃料物質に対する防護が必要な施設における確実な核物質防護強化措置を実施し、継続的な防護訓練の実施に努めています。

さらに、原子力施設で取扱っている核燃料物質の保管量、移動量の国への報告及び国・国際原子力機関が行う確認行為の対応を行っています。



核物質防護訓練

出入管理

(5) 社内イントラネットを利用したヒヤリハット、安全パトロールの良好事例等の共有

社内のイントラネットを利用し、各部署におけるヒヤリハット（キガカリ事象含む）事例、安全パトロールにおける良好事例などの情報を共有し、他部署の安全衛生活動の参考にできるようにしています。

(6) 安全だよりの発行

安全に関する豆知識、安全週間等各種行事案内、事故・トラブル事象の情報など安全に係る内容を『安全だより』として随時まとめ、従業員及び協力会社に周知し、職種を問わず安全衛生に関する理解が深まるよう活動を進めています。

#### 4. まとめ

以上のとおり、研究開発活動の推進にあたっては、国民に信頼される研究所を目指し、安全の確保に万全を期するとともに、積極的な情報公開、大学及び他の研究機関との連携、協力の推進を図り、開かれた研究開発活動を進めて参ります。

以上